PLAT NEWS

TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙／高校生と創る演劇
『Journey Over the Rainbow ードロシーとワタシー』
裏表紙／藤田貴大『equal』
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和6年10月発行70号［隔月発行］

11

2［土］～4［月・休］ 高校生と創る演劇『Journey Over the Rainbow ードロシーとワタシー』◉PLATアートスペース

3［日］ 松本千明バレエスタジオ第４回発表会『白鳥の湖』全幕 ◉PLAT主ホール

8［金］・9［土］ Bunkamura Production 2024『台風23号』 ◉PLAT主ホール

12［火］ リーディングアクト『一富士茄子牛焦げルギー』 ◉PLAT主ホール

12［火］・13［水］ 舞台『のうぜい合戦』◉PLATアートスペース

16［土］ 松竹大歌舞伎◉PLAT主ホール

17［日］ カッセルオペラアカデミー グローリアコンサートVol.3 ◉PLATアートスペース

24［日］ 豊橋洋舞家協会 第５回豊橋バレエフェスティバル ◉PLAT主ホール

12

7［土］ 海に生きる～昭和を駆けた人々～ ◉PLAT主ホール

7［土］・8［日］ マームとジプシー『equal』 ◉PLATアートスペース

14［土］・15［日］ 劇団「第五会議室」第９回公演『バンカラマントのナポレオン』 ◉PLATアートスペース

19［木］ プラットワンコインコンサート Musica Waya「夢にまで見る"わや！"な１日」 ◉PLATアートスペース

21［土］ 内藤智子音楽教室発表会 ◉PLATアートスペース

PLAT NEWS

プラットニュース

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2024年11月ー12月
vol. 70

TOYOHASHI ARTS THEATRE PLAT

CONTENTS 目次

1
目次
表紙の顔
2
INTERVIEW:1
高校生と創る演劇
『Journey Over the Rainbow
ードロシーとワタシー』
オズの魔法使いの世界と現実を行き来し、
ひと夏の冒険を描く。
下司尚実、渡辺芳博、政岡由衣子
5
INTERVIEW:2
マームとジプシー『equal』
つながってはいけない『equal』が、世界のどこかでつながっているかもしれない。
藤田貴大
7
COLUMN
松竹大歌舞伎公演
松竹大歌舞伎公演によせて
ふたつの顔〜親と子 そして 夫婦〜。
9
INFORMATION
PLAT主催公演情報
13
PURA PURA
バラコの寄り道ぷらぷら
劇団もわるくない
桑原裕子
14
SPONSOR
SUPPORT
TICKET CENTER

INTERVIEW インタビュー

下司尚実

政岡由衣子

渡辺芳博

下司尚実[しもつかさ・なおみ]
振付家・演出家・ダンサー。自由形ユニット"泥棒対策ライト"主宰。物語を紡ぐ身体表現力が評価され、劇団イキウメ『人魂を届けに』、asatte produce『ピエタ』など多くの舞台作品に振付・ステージングとして参加。その他にeastern youth『ソンゲントジユウ』MV、MISIAや中村佳穂のライブに出演、長編戯曲の執筆、ミュージカルを演出するなどその活動は多岐にわたる。東京パラリンピック閉会式ではAFTER THE GAMESパートを担当。

撮影:井上佐由紀

藤田貴大[ふじた・たかひろ]
1985年生まれ。2007年マームとジプシーを旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当する。2011年に発表した三部作「かえりの合図、まってた食卓、そて、きっと、しおふる世界。」にて第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。2013年今日マチ子の漫画『cocoon』を舞台化、同作で2016年第23回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。様々な分野の作家との共作を積極的に行うと同時に、海外での公演にも意欲的に取り組む。今年4月に初の長編小説『T/S』を発売。

COVER 表紙の顔

高校生と創る演劇
『Journey Over the Rainbow
ードロシーとワタシー』
PLATが開館の翌年の2014年より実施する「高校生と創る演劇」。11作目を迎える今回、2017年の高校生と創る演劇「ガンボ!」でステージングを務めた下司尚実を迎え、公募によって選ばれた高校生キャスト13名、高校生スタッフ6名の計19名とともに、「オズの魔法使い」を下敷きにしたPLATオリジナルの作品を上演します。

マームとジプシー『equal』
藤田貴大は自身が見てきた地元での出来事や記憶を テーマに数々の作品を生み出してきました。2023年から約1年の時間をかけて地元である伊達市やその 周辺の町を改めてリサーチ。そこで知った史実を出 発点に、18歳までの感覚と照らし合わせながら、これまでとは違った切り口で再び原風景と向き合いました。あの頃見ていたものの輪郭が少しずつ鮮明になり、そして、世界が大きく変容していく中で見える「今」の景色とは。

INTERVIEW:1 インタビュー

高校生と創る演劇『Journey Over the Rainbow ードロシーとワタシー』

11月2日[土]、3日[日・祝]13:00開演／18:00開演
11月4日[月・休]13:00開演
原案＝ライマン・フランク・ボーム「オズの魔法使い」
作・演出・振付＝下司尚実
出演＝オーディションで選ばれた高校生
会場＝PLATアートスペース

オズの魔法使いの世界と現実を行き来し、ひと夏の冒険を描く。

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

矢作――まずはそれぞれ自己紹介をお願いできますでしょうか。
下司――今回、作・演出・振付を担当する下司尚実です。普段は泥棒対策ライトという個人のプロデュースユニットをもち、演出、振付、ダンサーと、いろんな仕事をやっていますが、主には振付家として、身体を使ってどうお芝居を底上げするかを考える仕事をしています。
渡辺――渡辺芳博です。普段は俳優として、ストレートプレイ、セリフ芝居をやることが多く、たまに、パフォーマーとして身体を使った舞台にも参加しています。今回は下司さんの演出助手・美術として、雰囲気作りと小道具などを作っていきます。
政岡――政岡由衣子です。BATIKというコンテンポラリーダンスカンパニーでダンサーをしています。下司さんとは東京オリンピックの閉会式でで一緒して以降、『SERI〜ひとつのいのち』の振付助手や、『おはなしルルラン』に出演させていただきました。今回は振付助手で参加します。
矢作――下司さんは過去に一度、ステージングとして「高校生と創る演劇」に関わっていただきましたが、今回、演出をと言われたときにどんなことを感じましたか。
下司――豊橋は、生活の中に劇場があり、生活の中の一つとして演劇やダンスや舞台表現があるように思います。そういう、劇場が肌になじんでいる感じが素敵だなと思っていたので、またPLATとお仕事ができるのはうれしく、お話をいただいて食いつきました。
矢作――稽古はどういう風にしていこうと考えていますか。
下司――高校生と創る演劇には、普通関わる演劇や舞台とは違う面白さがあります。一緒に作品を創るということは刺激し合うということでもあるので、高校生と刺激し合いながら、一緒に成長していけたらと思っています。
振付家なので、今回もオーディションやワークショップでは身体を使ったワークに取り組んでいます。高校生たちが普段接している演劇作品とは違うアプローチをしているので、それをどう楽しんで本気で取り組めるか。よりオープンなマインドで舞台に立つ土壌を耕していけたらいいなと思いながらやっています。この短い間でもぐんと上がって、信じて任せ

てみようかなとか思える子もいました。でも、高校生の中にもさまざまな温度差はあるから、普段のクリエーションでの感覚を大事に、みんなと心の手を結んで、丁寧にやっていけたらいいと思っています。

矢作――今回はどのようなストーリーを想定しているのですか。

下司――『オズの魔法使い』を原作として、物語と現実世界の生活とを行き来する、ひと夏の冒険を描けたらいいなと思っています。映画『オズの魔法使い』の「Over the Rainbow」という曲では、「ここではないどこかにはもっとすてきな所があるわ、そこに行ってみたい」と歌っています。その感覚には、自分じゃない誰かになりたい、というような何かをうらやむ気持ちがある。その感情って高校生になると、より強まってくると思います。どういう大学に行こう、どんな仕事をやりたいかと、将来のことは分からない…。けれど、そういう揺れ動く気持ちを誰もが思っていると知ると、それだけで気持ちが軽くなることもありますよね。『オズ』は昔の映画ですしファンタジーの世界ですが、今の高校生たちの気持ちともつながる部分があると思い、そういうことをヒントにしようと思っています。

矢作――最初の出会いから、高校生たちの印象で、変化したことや、期待していることをお聞かせください。

渡辺――少し緊張していたり、恥ずかしがっていたりしていたオーディションでの出会いから3ヶ月たって、高校生たちのそれぞれの個人の色が出てきました。楽器を使うワークショップでは、その楽器にチャレンジするんだとか、段々楽しそうにやり始めたなとか。プロの現場では、出来て当たり前というところからスタートしますが、粗削りな感じから始まって、少しずつ自分の色がにじみ出てくるのを見るのが面白いです。3ヶ月でこんなに変わるということは、この先どう変わるのか。日常生活で何を経験するかによっても状態が変わると思うので、楽しみでもあるし、接する側としては怖さもあります。

あと、下司さんの作品は、現実世界とフィクションの世界を行ったり来たりしながら、面白さがじわじわっと出てくる。僕らがやる感覚とは違う感覚で高校生は参加してくれると思います。決まったものではないものに対して、それぞれのアプローチをどう発見していくのか、楽しみです。

政岡――オーディションの結果、キャストではなくスタッフとして参加することになった人たちの変化を、現段階ではすごく感じます。結果を受入れて一個飲み込んだというのがよく分かります。彼女、彼らにとっては苦い経験だったと思うのですが、ポジティブに変わるきっかけになったんだなと。その面が見られたのがよかったです。その環境で、キャストは舞台に立つとなると、周りにいるスタッフたちからも熱量を感じ、いい効果を生み出していくのだろうという期待があり、すごく楽しみです。

下司さんは、お客様への責任感を強く持っています。高校生の皆さんにとっては、お客様へ作品を届けるよりは自分たちが成長することが主眼だし、それを求めている企画です。一方、下司さんはお客様へ作品をどう渡すかをとても考えているので、そういう意味で、すごくいいバランスだと思います。高校生の成長する姿をただ見る作品だけではなく、演劇作品としての価値をご期待ください。

矢作――今の高校生を見たときの印象で、自分たちの時とは変わってきたところ、変わらないところを、お伺いできますか。

下司――自分が高校生だった時は、みんな好き勝手にやっていました。治安が悪かったり、本当に人を殴ることはないにしても、ある種の攻撃性を見せる人が学校内にいたり、ギャルがいたり。今回の参加者には、ギャルもオラオラしている人もいないです(笑)。みんなすごく優しいし、気遣いすることが手前の引き出しにある。男女関係なくお互いを褒め合うと雰囲気で、私の高校生時代とは違います。すごく素敵な雰囲気だけれど、表現という場では、攻撃性にもなる色の濃いものを見せていく必要がある。それをどうみんなへ共有していくかが課題だと思っています。

渡辺――夏のワークショップの1日目で行ったコミュニケーションデザインのワークショップでは自分のことを言葉ではっきりと説明できていて、自分の高校時代と比べてすごいなと思いましたし、習いに来て、楽しそうにやっているというのは僕が高校生だった頃に比べてすごい。

政岡――私が高校生の時は、大阪は大阪、東京は、東京という感じでした。でも、今の高校生たちは上手に標準語を話しますし、SNSとかで豊橋にいながらにして外につながれる、いろんな所に友達がつくれたりする。そんな中、ローカル性みたいなものをどれぐらい実感しているのかなと思います。それはすごい違い。そういう状況における地域愛とはどのようなものなのかと興味があります。

矢作――最後に、見に来てくれるお客さんに対して、下司さんから一言おねがいします。

下司――私の作風では、演技もするし踊りもするし影絵もと「よく分かんないけど面白い」ということを普段やっています。今回の作品でも、音楽や歌、身体表現、ダンスなど様々な要素を取り入れます。美術も身体も豊かに動かして、視覚的な要素で楽しいことと、芝居で、ダンスで楽しいことなど、五感以上に楽しめる3D体験を提供できるようなエンターテインメント作品をつくります。高校生たちのエネルギーがエンジンをかけ、私たちプロの見せ方と交わって、みんながPLATで演劇をやりたいと思ったからこそ見れる打ち上げ花火みたいな楽しい時間をお届けしたいと思っています。気分転換になるような、「楽しい、来てよかったな、おしゃべりしながらおいしいご飯食べて帰ろうよ」という、さわやかなエンターテインメントをお届けしたいと思いますので、劇場でお待ちしております。

INTERVIEW

音楽も、歌も、ダンスもある、打ち上げ花火みたいな楽しい時間をお届けしたい。

渡辺芳博
演出助手

政岡由衣子
振付助手

下司尚実
作・演出・振付

高校生と創る演劇
『Journey Over the Rainbow』
－ドロシーとワタシ－

INTERVIEW

つながってはいけない『equal』が、世界のどこかでつながっているかもしれない。

作・演出 **藤田貴大**

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

矢作── 今回の『equal』では、豊橋でも2000年に上演した『てんとてんを、…』と同じく、故郷である土地の話を掘り下げようと思われたのでしょうか。

藤田──『cocoon』が終わった直後に、ふと僕の出身地である北海道の伊達のことを考える時間がありました。その海岸では過去に何があったのか、隣町の室蘭は鉄の町と言うけれど、一体どういう町なのか。本当のことを知りたくて、なんとなくリサーチを始めました。例えば北海道は第二次世界大戦の被害はほとんどないと祖母からは聞いていましたが、室蘭では八百何十人、僕の高校の最寄り駅でも空襲で二十何人も亡くなったそうです。今回の『equal』の制作では、約1年半かけて18歳まで過ごした町や、その周辺の史実を自分なりに調べていきました。

矢作──タイトル『equal』についてお伺いできますか。

藤田── 僕の地元では戦争はなかったと思っていたけど、調べてみると確かに戦争があった。ということは、このレベルの戦争はどんな土地でもあったかもしれないし、起こりうることなのではないかと気づいたんです。『equal』という言葉は、ある意味で“呪い”のようなイメージがあるなあ、と。つながってはいけない『equal』が、世界のどこかでつながっているかもしれない。それが、タイトルの着想です。

矢作── 自分の立脚点をきちんと掘り返すから、事実を認識できる。認識せず生きていくと、教えられたことの範囲の中だけで終わってしまう。

藤田── そうなんです。『cocoon』における沖縄でのリサーチも、「北海道出身の僕がどうして沖縄のことを?」という疑問を抱えつつ始まりましたが、いつの間にか熱中していて、沖縄での時間は気づけば10年が経っていました。リサーチをしていく中で膨大な書籍を読みますが、台詞としては1、2行だったりする。だけど、その数行を書くために、どれだけ読んだか、どれだけ話を聞いたかが試されるんですよね。そういう意識は、沖縄と向き合って学んだ気がします。その土地のことを「知っていく」ということを、沖縄同様、様々な土地にもアプローチできないか? と模索中です。

矢作──『cocoon』でのさまざまなことが、その後の作品作りに大きく影響を与えているということでしょうか。

藤田── 演劇を作り始めた当初は、自分の個人的な曖昧で小さな記憶を頼りに制作していたように思い出されるんですね。でもその後、公演の規模、上演する劇場が大きくなって、僕の記憶の中にはない、あるはずのないモチーフを扱うようになっていったんです。例えば『小指の思い出』や『書を捨てよ町へ出よう』、『蜷の綿』などの制作では、僕の知らないあの時代の新宿や渋谷、そして社会と演劇とは何だったのか、と対峙しなくちゃいけない。あの経験は今思えば貴重だった気がします。それが徐々に戦争の時代に意識が向いて、そして戦争を知るということは明治初期からの政治の感じを知らないと分からない、とか。机の上で学ぶだけではなく、実際に制作しながら「知っていく」ということを、どんどん拡張していきましたね。

矢作── そういう意味で藤田さんの作品が、非常に厚い層になってきているという印象を受けます。

藤田── 僕の作品の特徴として、俳優がセリフを繰り返すリフレインがあるのですが、最近ますます、役者と僕で何でリフレインなのかということを話し合うようになりました。昔はあるシーンを丸ごとリフレインすると、役者の身体がある意味でそれ以前より助長されるというふうにシンプルに考えていたけれど、果たしてそれだけなのか、と。今はもう少し複雑で、台詞をフレーズだと捉えて、とにかく細かく入り組んだリフレインが思いつくようになってしまったんです。でもそれがただただ複雑化して、観客に分からないレベルに達してしまうのは良くないと思っているので、冬までに整理したいと思っています。

矢作── 分かりやすさを追求してもクリエーターとして負けではないフェーズに入ってきているという印象を受けます。

藤田── いまや演劇は有名な俳優さんが出演するだけで集客できる時代ではなくなったと思います。僕らの世代は、90年代後半や2000年頃よりも、芸術点の高い表現が増えてきていると同時に、2001年の9.11、2011年の震災、そしてコロナ禍も経験して、90年代の感覚とは少しフェーズの違うものが生まれているような体感があるんですよね。「リアル」という言葉が明らかに変わってきているというか。ただ、演劇はどこまでいってもエンターテインメントでもあるとも思っているんです。チケットを買って、劇場まで足を運んできてくれるんだから。だからこそ、ごく一部の人にしかわからない表現になってはいけない意識も、どこかにはなくてはいけない。分かりにくさと分かりやすさの駆け引きは常にありますね。

矢作── コロナ渦で、公演中止や様々なダメージを受けたと思うのですが、それを経て変わってきたことはありますか。

藤田── コロナ禍は悪いことばかりでもなかったと思います。落ち着いて自分とは何だろうと考えられる時間にはなりました。2020年は、とにかく大変でした。役者とも話せないし、ゆっくり誰かと話すこともできなかった。演劇活動は必然的にペースダウンしましたが、そのおかげで別の取り組みができた。僕自身がみんなの話をよく聞くようになったという変化があったと思います。今思えば、以前は自分が提案するだけで周りの話をあまり聞いていなかったようにも思い返されます。

しかしコロナ禍を経て思うのは、今の時代の若い世代にとっては、演劇を始めるのも大変だよなあ、と。僕が20代の頃は、例えば世田谷パブリックシアターのネクスト・ジェネレーションや、F/T(フェスティバル/トーキョー)への参加とか、駒場アゴラ劇場で上演できるようになるとか、ある種のステップアップがありましたが、最近では難しいですよね。若い世代が将来を考える時に、普通に考えたら演劇は選ばないだろう、と。その未来を変えたい。自分たちの作品を成立させるだけではなく、若い世代の人たちとどうつながったら演劇がいいものだと思えるかを、マームとジプシーの中でもいよいよ話し合っています。

矢作── そんな中で久々に豊橋に来ていただけるということで、豊橋のお客様に向けてぜひ一言。

藤田── 豊橋は僕らの作品を観に来てくれるお客様がいる体感があります。豊橋に2年行っていないだけで、全然行っていないという寂しさがある。豊橋で、マームとジプシーと劇場とで大きなリフレインがかかっているような感じがするのです。本当に楽しみにしています。

この前、国会図書館に行った時、豊橋を調べたいなと思って。いずれは豊橋でも滞在制作したいなと。例えば水上ビル一つとっても、全部暗渠(あんきょ)であるとか。歴史的にも知りたいことがたくさんありそうです。

矢作── それは構想として、ぜひ実現したいところです。よろしくお願いします。

マームとジプシー

『equal』

世界が大きく変容していく中で見える「今」の景色とは。

12月7日[土]、8日[日]14:30開演

作・演出=藤田貴大

出演=荻原綾、尾野島慎太朗、成田亜佑美、波佐谷聡、召田実子

会場=PLATアートスペース

実りの秋。わたしの大好きな芝居が豊橋で上演される。『双蝶々曲輪日記　引窓』でしっとり涙し、『身替座禅』で大いに笑っていただきたい。

「引窓」とは屋根に開けた空間、今風に言えばサンルーフ、天窓ともいう。周りに竹藪があるので昼も薄暗い室内に光をとりいれたり、囲炉裏や台所の煙を出す、換気扇代わりに使用。昔の民家にはよくあった。引き縄が天板についていて、夜や雨が降れば縄を引いて閉じる。緩めると屋根の勾配で滑り落ち窓から光が差し込む。芝居ではこの窓が活躍する。

場所は淀川沿いの八幡の里。近くに石清水八幡宮がある。

毎年、8月15日は「放生会」といって、ふだん魚や鶏など生き物を食べている私たちが、その日、亀や小鳥、稚魚などを逃がして命に感謝する行事がある。おりしも旧暦なので中秋の名月の日にもあたる。その前夜の出来事。

南与兵衛の家では老母と女房が薄や月見団子を供えている。そこに、与兵衛が村の役人に出世し名前も「南方十字兵衛」となり刀を差して帰宅する。手には十手も持っている。

夜の安全を守る警察の役割もする郷代官になったのだ。これは亡くなった父も勤めていた。実母も亡くなり、いまの母は後添いで義理の仲。嫁とともに出世を喜ぶ。実はこの母は、やはり亡くなった前夫との間に実の子を産んでいるが、小さいころ養子に出し、今では相撲取りとして活躍。濡髪という四股名の力士に出世している。この濡髪が長崎の相撲にいくので、別れを惜しみに、この家を訪ね、いま二階の座敷で休んでいた。母は実の子と義理の子ふたりの出世で喜びにあふれている。与兵衛に紹介しようとしていたが、役所から来た客人との会話から意外な事実が浮かび上がる。濡髪が人殺しをしてお尋ね者になっていたのだ。母も嫁もびっくり。

なんと人相書きの手配書まで出来上がっている。客が帰り与兵衛が庭の手水鉢に目をやると、二階から様子を伺っていた濡髪の姿が水に映り、与兵衛に気付く。ここで嫁はあわてて縄を引き窓を閉める。家が真っ暗闇になる。

歌舞伎は照明で変化をつけない「引窓ぴっしゃり」「うちは真夜となりにけり」という浄瑠璃で観客は想像する。まさに母親の心は暗闇だ。与兵衛は「夜は自分の警備の役、あやしい人物を捕まえる時間だ」といえば女房はすばやく引き縄を緩め「まだ日が高い」と窓を開ける。ここが、一回目の窓の開け閉め。訳が分からない与兵衛に母が頼みごとをする。自分が亡くなった後の菩提を弔ってもらうため寺に納める金を差し出して与兵衛に人相書きを売ってくれという。自分は地獄に落ちてもいいから、その手配書が欲しいという。与兵衛は、この母には実の子がいて、小さいころ養子に出していたことに気づき、その子はどうしているか聞くが、なにもいわず、売ってほしいという。与兵衛は母の心を察し、人相書きを手渡し、夜の警護のため外出する。

濡髪は、二階から走り降りて与兵衛の縄にかかろうとする。しかし母がすがりつき、逃げてくれと頼む。そして目立つ前髪を剃り落とし、手配書にもある「ほくろ」をとる。母の言うなりになっていた濡髪はここで、手を後ろに回し、母の気のすむようにしたが、はじめから自首するつもりだった。母に実の子より義理の息子の与兵衛に手柄を立てさせるのが、この家に嫁いだ母の役目ではないか、と諭すと母は納得して、息子を縛る。その縄が引窓の縄。引かれて窓が締まり再び真っ暗闇。まさに母の絶望の瞬間。そのとき与兵衛が立ち返り役所に連れてゆくためと引窓につながっている部分を切り落とすと窓が滑り落ち開く。二度目の開閉でここが肝心。照明は変わらないが、この日は満月の前の日。月光が差し込んでいるのだ。その明るさを与兵衛は「夜が明けた」と嘘をいう。なぜか、自分の役目は夜だけ、明ければ「放生会」当日。どこへでも逃げろと金包みを握らせ、別れてゆく。

人情が交錯する素晴らしい戯曲。涙がとまらないはず。

実の子と義理の息子。与兵衛という名と十字兵衛という役職。

継母と実母…ふたつの顔が月光に照らされたり闇に曇る。そんな秋の名作である。

かわって『身替座禅』舞踊劇だが眠くならないサスペンス作品？狂言の『花子』が原作。大名の恋人の名前が花子。会いたいけれど、奥さんがコワイ。今の世では許されない不倫作品。奥方に外出の許可を取るのが大変。神社やお寺にお参りに行きたいといっても許してもらえない。もちろん旅行も厳禁。そこで自宅の持仏堂にこもって座禅をするのなら良いとお許しが出た。女人禁制なので夜中にお茶やお菓子など持ってこないようにとくぎを刺して、家来の太郎冠者を呼びだし、座禅衾という着物をかぶって姿が見えないよう工夫し身替りを命じる。これが「身替りの座禅」。

ところが、夜中に奥方が、茶菓をもって見舞いに来て露見する。激怒する妻、コワがる太郎冠者が面白い。こんどは奥方が座禅衾を被って夫の帰宅を待つ。花子との逢瀬を楽しみほろ酔い機嫌で帰る夫。妻とも知らず太郎冠者と思いこみ、楽しかった一夜の思い出を自慢する。ここが最大の見どころ、さて、どうなるか？スリル満点！存分に楽しんでほしい。

従順な夫と浮気心の夫、厳しい妻だが、それは夫に心底惚れているからだ。この夫婦もふたつの顔を持つ。わたしたちの日常と重なり合う滑稽さ。「他人事」？と思って大名の「悲劇」を味わいたい。

豊橋で楽しむ名作二題。まず、本日はこれぎり。

COLUMN

松竹大歌舞伎公演によせて

ふたつの顔
～親と子　そして　夫婦～

葛西聖司
古典芸能解説者

上村吉弥

市川笑三郎

市川青虎

松竹大歌舞伎
『ご挨拶』
『双蝶々曲輪日記　引窓』
『身替座禅』

11月16日［土］昼の部12:00開演／夜の部16:30開演

出演＝中村錦之助、中村隼人 ほか

会場＝PLAT主ホール

INFORMATION

PLAT主催・共催公演情報

託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せは
プラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演

好評発売中

マイセレクト2024 4

オペラシアターこんにゃく座
オペラ『あん』
10/26［土］14:00開演

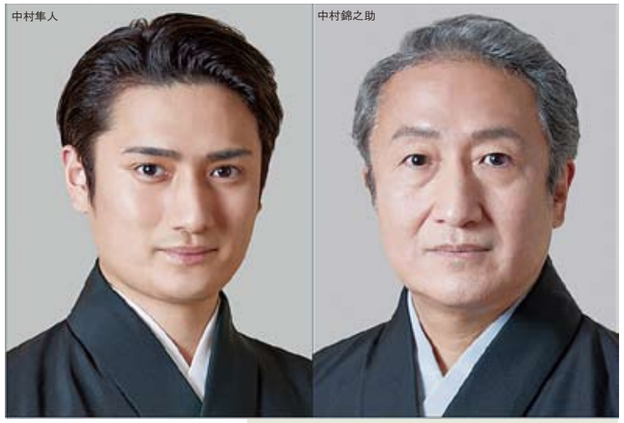
世界中で翻訳され映画化もされた同名小説が、原作者本人による台本でオペラに。今を生きるすべての人に＜いのち＞の意味を問いかける、こんにゃく座の新境地。
原作・台本＝ドリアン助川（ポプラ社刊「あん」より）
作曲＝寺嶋陸也
演出＝上村聡史
出演＝梅村博美、相原智枝、
髙野うるお、石窪朋、豊島理恵、
金村慎太郎、飯野薫、小林ゆず子、
入川舜（ピアノ）、草刈麻紀（クラリネット）
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席5,000円、A席3,000円 ほか
※18歳以下のお子様無料で招待対象公演。先着100名。
プラットチケットセンターにて取扱い。
【特別協賛】サーラグループ

オペラ「あん」舞台写真 撮影：前澤秀登

高校生と創る演劇
『Journey Over the Rainbow —ドロシーとワタシ— 』
11/2［土］13:00開演／ 18:00開演
11/3［日・祝］13:00開演／18:00開演
11/4［月・休］13:00開演

好評発売中
11月2日
13:00の回のみ

2017年の高校生と創る演劇「ガンボ！」でステージングを務めた下司尚実を迎え、東三河の地域を中心とする高校生とプロのスタッフがともに新作を創作します。
原案：ライマン・フランク・ボーム「オズの魔法使い」
作・演出・振付＝下司尚実
出演＝オーディションで選ばれた高校生
会場＝PLATアートスペース
料金＝［全席自由・日時指定・整理番号付］一般2,000円、高校生以下500円 ほか


中村隼人　中村錦之助

松竹大歌舞伎
11/16［土］
昼の部12:00開演
夜の部16:30開演

好評発売中
12:00の回のみ
マイセレクト2024 4

中村錦之助・隼人親子が名作『双蝶々曲輪日記 引窓』で初共演！特製弁当や特製和菓子、アートスペース2階ホワイエでのプラット茶屋もお楽しみに！
演目＝『ご挨拶』、『双蝶々曲輪日記 引窓』、『身替座禅』
出演＝中村錦之助、中村隼人 ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］
S席昼の部10,000円、S席昼の部ペア18,000円、S席夜の部9,000円、S席夜の部ペア16,000円、A席7,000円、B席5,000円 ほか
【特別協賛】サーラグループ

撮影：鈴木陽介

Makoto Ozone No Name Horses ～20年目のthe DAY1～
2025/1/16［木］18:30開演

好評発売中
マイセレクト2024 4

小曽根真がリーダーをつとめ、日本を代表するトップミュージシャンが終結したビッグバンド。活動開始から20年の節目を迎えるアニバーサリーイヤーのスタートとなる新年。これまでのキャリアを経て、次代への新たな進化を遂げるスペシャルコンサート。
ピアノ＝小曽根真
トランペット＝エリック・ミヤシロ、奥村晶、松井秀太郎、岡崎好朗
トロンボーン＝中川英二郎、マーシャル・ジルクス、山城純子
サックス＝岡崎正典（As）、池田篤（As）、三木俊雄（Ts）、陸悠（Ts）、岩持芳宏（Bs）
ベース＝小川晋平
ドラムス＝高橋信之介
会場＝PLAT主ホール
料金＝［全席指定］S席 一般7,000円、A席 一般4,500円 ほか
※18歳以下のお子様無料で招待対象公演。先着60名。
プラットチケットセンターにて取扱い。

マームとジプシー『equal』舞台写真　撮影：細野晋司

マームとジプシー
『equal』
12/7［土］14:30開演
12/8［日］14:30開演

マイセレクト2024 4
12月7日のみ

藤田貴大が18歳まで過ごした地域のリサーチで得た史実を出発点に、これまでとは異なる切り口で、世界が大きく変容していく中で見える「今」の景色を描く。
会員先行＝10月5日（土）
一般発売＝10月19日（土）
作・演出＝藤田貴大
出演＝荻原綾、尾野島慎太朗、成田亜佑美、波佐谷聡、召田実子
会場＝PLATアートスペース
料金＝一般4,000円ほか
※18歳以下のお子様無料で招待対象公演。先着40名、10月19日よりプラットチケットセンター（オンライン・電話）にて取扱い。

二兎社
『こんばんは、父さん』
2025/2/11［火・祝］
13:00開演

マイセレクト2024 4

2012年初演の作品を12年ぶりにキャストを一新して上演。年齢も境遇も考え方もまるで違う男たちによる「特別な一夜」を描きます。
会員先行＝11月23日（土・祝）
一般発売＝12月7日（土）
作・演出＝永井愛
出演＝風間杜夫、萩原聖人、竪山隼太
会場＝PLAT主ホール
料金＝S席7,000円、A席5,000円 ほか
※18歳以下のお子様無料で招待対象公演。先着50名、12月7日よりプラットチケットセンター（オンライン・電話）にて取扱い。

風間杜夫

萩原聖人

竪山隼太

ONE COIN CONCERT
ワンコインコンサート

PICK UP

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート2024 下半期

地域ゆかりの若手音楽家の育成と、地域の皆さまに上質なコンサートを気軽に楽しんでいただくことをコンセプトに2014年からスタートしたプラットオリジナルのコンサートシリーズです。
会場＝PLATアートスペース　料金＝[全席自由・整理番号付]500円　上演時間＝60分

Musica Waya　好評発売中
「夢にまで見る"わや！"な1日」
12/19［木］14:00開演

演奏予定曲目＝R.モリネッリ：ニューヨークからの4枚の絵、A.C.ジョビン：イパネマの娘 ほか
音楽で人に喜びと笑顔を届けることをテーマに活動する「ムジカ・ワヤ」。今回の演奏会では「ある一日」をテーマに、時の情景や人々の営みをサックスとピアノで表現。どうぞお楽しみに！

武田涼雅[サクソフォン]
愛知県立刈谷北高等学校を経て昭和音楽大学演奏家Ⅰコースを卒業。サクソフォンを13歳よりはじめ、現在はサクソフォン奏者として精力的に演奏活動をする他、愛知県内をはじめとした吹奏楽指導や個人レッスンも行っている。

市居宥香[ピアノ]
桐朋女子高等学校音楽科を経て、名古屋音楽大学ピアノ演奏家コースを4年間継続特待生で卒業。2024年同大学院修了。現在ピアニストとして活動する他、名古屋音楽大学授業補助員、伴奏員、及びアカデミー講師を務める。

二宮綾音&小田かるら
「音初め～フルートとピアノで紡ぐ春風の音彩～」　好評発売中
2025/1/4［土］14:00開演

演奏予定曲目＝リスト：愛の夢、ダマレ：白つぐみ、プロコフィエフ：フルートソナタより第3、4楽章 ほか
豊橋育ちの実力派デュオ！表現力・技術力共に秀でたフルートの美しい音色に、バランス感覚抜群のピアノが優しく寄り添います。同門出身ならではの息の合った演奏に乞うご期待！

二宮綾音[フルート]
日本管打楽器コンクール フルート部門 第2位。かながわ音楽コンクール 一般の部 第3位。刈谷国際コンクール 一般の部 優秀賞並びに聴衆賞。豊橋市立牛川小学校、青陵中学校を経て八王子高等学校を卒業、現在東京藝術大学4年次在学中。

小田かるら[ピアノ]
豊橋市出身。ピティナピアノコンペティションJカテゴリー東日本本選第1位、全国大会入選。愛知県立明和高等学校音楽科を経て昭和音楽大学ピアノ演奏家コースに特待生として在籍。現在、江口文子、長谷川淳、後藤正孝各氏に師事。

デュオ・ネリネ
「めくるめくテューバの世界」
2025/3/1［土］14:00開演

発売＝2025年1月3日(金)
演奏予定曲目＝ラフマニノフ：ヴォカリーズ、クーツィール：テューバコンチェルト作品77 ほか
深みのあるテューバの低音と美しいピアノのハーモニーで名曲の数々を披露します。なかなか観る機会の少ないテューバとピアノのセッションで、心と体に響く演奏をお届けします。

渡邊望[テューバ]
愛知県豊橋市出身。12歳よりマーチングバンドでテューバを始める。聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部、愛知県立芸術大学管打楽器コース卒業。現在フリーランスのテューバ奏者として指導等活動している。

中條響[ピアノ]
第23回"万里の長城杯"国際音楽コンクール大学生の部第1位及び理事長賞受賞ほか多数受賞。2023年3月『Sonorité』をリリース。愛知県立芸術大学を経て同大学院修士課程鍵盤楽器領域修了。

WORK SHOP
ワークショップ・レクチャー

ワークショップ＆ショーイング『赤鬼』出演者募集
野田秀樹の名作戯曲『赤鬼』を題材に、演出家の樋口ミユと市民参加者がワークショップを重ね、最終日には成果をショーイングとして発表します。
対象＝高校生以上。演劇未経験者可。2025年1月17日(金)～ 19日(日)、2月12日(水)～ 24日(月・休)のワークショップとショーイング(発表会)に参加可能な方。
定員＝14人程度(選考)
審査＝11月30日(土)・12月1日(日)
参加費＝3,000円(合格者のみ)
申込＝11月10日(日)までに①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み ②申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参かFAX (0532-55-8192)

樋口ミユ 撮影：伊藤華織

ダンス・レジデンス2024 大森瑶子 成果発表会
ヨコハマダンスコレクション2023コンペティションにおいて「穂の国とよはし芸術劇場PLAT賞」を受賞した大森瑶子が、豊橋市に滞在して新作のクリエイションに挑み、最終日には成果発表としてパフォーマンスを披露します。
日時＝12月22日(日)17:00
出演＝大森瑶子 ほか
会場＝PLAT 創造活動室A
参加費＝無料
定員＝30人程度
申込＝①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

大森瑶子 撮影：菅原康太

ワークショップファシリテーター養成講座2024［後期］
「豊橋」との出会いから演劇をつくるワークショップ
豊橋の人や場所を取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、参加者全員で演劇を作り発表する連続ワークショップです。
日時＝12月1日(日)～2025年2月1日(土)［全9回］
講師＝柏木陽、すずきこーた、吉野さつき
会場＝PLAT
対象＝18歳以上で、講座日程に極力参加できる方。演劇経験不問。
参加費＝3,000円［全9回］
定員＝20人(応募者多数の場合は選考)
申込＝11月22日(金)17:00までに①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み②申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参かFAX (0532-55-8192)

新井英夫 × 板坂記代子 × 佐久間新 × 吉野さつき 即興パフォーマンス＆トークセッション
「もちつもたれつ、ありもので、なんとかしてみますか」
～4人組と"プラットをささえる人たち"のアートとケアをめぐる試み。生老病死と表現を包みこむ劇場をめざして～
2年前の夏にALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断された体奏家の新井英夫と、パートナーでケアする立場にもなった板坂記代子、ジャワ舞踊家の佐久間新による即興パフォーマンスと、吉野さつきによるトークセッションを行います。
日時＝11月17日(日)15:00開始
出演＝新井英夫、板坂記代子、佐久間新
コーディネーター＝吉野さつき
会場＝PLAT 主ホール舞台上
参加費＝一般1,500円、U25 1,000円
対象＝どなたでも
定員＝50人
申込＝①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

TICKET CENTER
チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター
◉オンライン
https://toyohashi-at.jp［24時間受付・要事前登録］
◉劇場電話・窓口
0532-39-3090［休館日を除く10:00－19:00］

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内
ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
◉料金＝U25［25歳以下］：公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下：1,000円
◉購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。
◉その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料
◉特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

18歳以下のお子様を無料ご招待［座席数限定・事前申込制］
文化庁による子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業)として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。
10/26　こんにゃく座 オペラ『あん』
12/7-8　マームとジプシー『equal』
2025/1/16
Makoto Ozone No Name Horses
2025/2/11
二兎社『こんばんは、父さん』
対象＝公演当日に18歳以下小学生以上の方
同伴者申込＝18歳以下の子どもに同伴する保護者等のチケットを対象座席料金の半額でご用意いたします。(先着順・枚数限定)
※公演によって申込方法が異なります。詳細は劇場HPにてご確認ください。

PURAPURA
バラコの寄り道ぷらぷら

ぷらっと文化祭「Art Platter」Vol.2「とまり木の朗読会」より

劇団もわるくない
桑原裕子
穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督

劇団という集団形態はもう古い、といわれて久しいです。

私が所属する劇団 KAKUTA も、コロナ禍でちょっと疲れてお休みしている間に、あれよあれよと 3 年経ってしまいました。その間に私は外部の演劇活動に勤しんでいたわけですが、劇団活動に比べると、どこかからお声がけ頂くプロデュース公演は誤解を恐れずに書けばやはりとっても楽なんですね。自分たちで予算を立てなくていいし、自分たちで舞台を建てなくていいし、自分たちの足でチケットを売りさばかなくていい。

もちろん外部の公演は、自分の名前ひとつで頑張らねばいけないというプレッシャーが大きいです。しかし演出なら演出、俳優なら俳優と専念できるのに比べ、とにかく劇団は道具作りや宣伝活動、何でも自分たちでやるのが当たり前でした。「でした」と過去形で書いているのは今休団しているからではなく、そもそもノーギャラでバイトしながらやるっていう労働基準はどうなんじゃい、という議論が、近年強くされているからです。そういうもんだべと思い込んでいた私世代の、特に小劇場の演劇人は思考アップデートを急速に行っていると思います。とはいえ、たとえ稼げなくても演劇をやりたいという激しい渇望から始まるのが劇団でもあるので、何が正しいかは難しいところなんですが……。

そんなことに思いを馳せることも減っていたここ最近、私の友人たちがユニットを立ち上げました。ハマヨンズというそのグループを構成するのは、構成員の半分が今も KAKUTA の劇団員ながら、一般職に就き俳優活動は無期限休止状態だった面々。

他のメンバーも、かつては何度も一緒に芝居をしたけれど、現在は介護職や保育士など様々な分野で働く社会人です。

演劇を離れて 10 年近く、一時はキャンプやサーフィンなどいわゆるリア充な趣味に手を出したものの、演劇への渇望治まらず、自分たちで声を掛け合い、先日たった1ステージのみの公演を行いました。1ステージというのは彼らのこだわりで、しかもノリ打ち。つまり仕込みからリハーサル、本番までを一日ですますことですが、そんなの地方巡業の旅公演でもなかなかやらないことですから、一応彼らから「現役」と呼ばれてる私は、それってどうなのと横から口を挟みました。しかし彼らは、できるだけ有休を使わない、社会人活動に支障がない形で継続的に演劇活動を行っていく試みとして「まあとにかく一回、やってみるよ」とのこと。

こういうときの「現役」はとかく、うざがられます。だってスタッフさんのことを考えたらさーとか、急用で来られないお客さんがいたらさーとか、私は口元がむずむずしっぱなしですが、経験則で物を言ってくる人の意見よりも、彼らは彼らでゼロから1を立ち上げて、自ら学ぶことに価値があるのです。なので当日、私は口を閉じ、受付を手伝いました。

「パンフレットを渡すだけの簡単な仕事ならバラにも出来るかもね」などと奴らは言うのです。ええ、「現役」ぶる私も、スタッフワークはてんでダメ。作演出なんてそんなもんです。バタバタとパンフレットを配ってまわったものの、お客さんとお喋りして渡しそびれたり、ポンコツそのものでした。

しかしハマヨンズの公演は、満員御礼で大成功。翌日は仕事だから打ち上げは来週末ね、と帰って行く様も社会人らしくてかっこよかった。

なぜ、社会人になっても演劇を続けるのか。「演劇はプロを目指す者のためにあるのではなく、誰がやってもいいのだということを、バラがやってた豊橋の『市民と創造する演劇』を見たときに知ったんだよ」

ハマヨンズの立ち上げメンバーで、現在も KAKUTA の幽霊劇団員であるマツダ君が言いました。数年前にプラットで私が演出をした『市民と創造する演劇』の『甘い丘』は、KAKUTA の代表作のひとつ。その作品を市民があれだけ面白くやったということに感銘を受けたんだそうです。そして、わざわざ自分の時間を切り崩しても皆で集まり、あれこれ相談しながら演劇を作ることは、キャンプでは埋められない喜びがあるのだと、マツダ君はしみじみ語りました。しみじみ語る、というやつを一年くらい会うたびにやられたので困りましたが、それほどに演劇は魅力的なのだとわかりました。

この９月、ぷらっと文化祭『Art Platter』のひとつとして、市民俳優陣からなる『とまり木の朗読会』を行いました。これを書いているのはまだ公演前ですが、私は久しぶりに劇団活動と近い気分を味わっています。なにせこの企画、予算が少ない（書いて良いのかな）。だから市民も劇場スタッフも、自分たちで小道具や衣裳を集め、音響も照明も自分たちでやるのです。朗読会担当の劇場スタッフは、SHEIN で購入した照明器具を試した動画を夕べ何度も送ってきました。人が足りなかったら出演してねといったら、「勘弁してください」と言われるかと思いきや、即答で「任せてください」と返ってきました。頼もしい。他の PLAT の劇場スタッフも、あらゆる企画の支度に日夜忙しく動いています。ああだこうだみんなで試して、作戦会議して。

仕事だけど、仕事じゃないこの時間は、大変だけどなんだかとてもありがたく感じます。

SPONSOR
広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロトリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

ケンチク クロノ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283（代）

創業文政年間
日本料理 きく家
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会（順不同）
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園

気まぐれコンサート
事務局／0532-62-9259（小川）

安心・安全な地下駐車場
パーク500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円（上限４時間まで）に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115（代）

豊橋名産 ちくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日＝水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ

Carbon Offset for 150g-CO2/day
Waterless Printing. Naturally.
CO2削減に貢献しています！
カーボンオフセット
この印刷物は、環境省等が運用する「J-クレジット制度」を活用しており、国内のCO2削減事業を支援しています。

SUPPORT
特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ
大和田和惠
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙
株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド
大三紙業株式会社
戸田淳子
トヨタネ株式会社
トヨネン株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社
豊橋信用金庫
豊橋倉庫株式会社
豊橋鉄道株式会社
早川直宏
株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園
株式会社豊川堂
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
若松園
匿名会員２名

（五十音順）

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話＝0532-39-8810［代表］（9:00－20:00）
開館＝9:00－22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅（JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道）、
新豊橋駅（豊橋鉄道渥美線）直結。豊橋駅南口から徒歩３分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT